

## 第2章

## 基本構想



## 第1節 まちのプロフィール

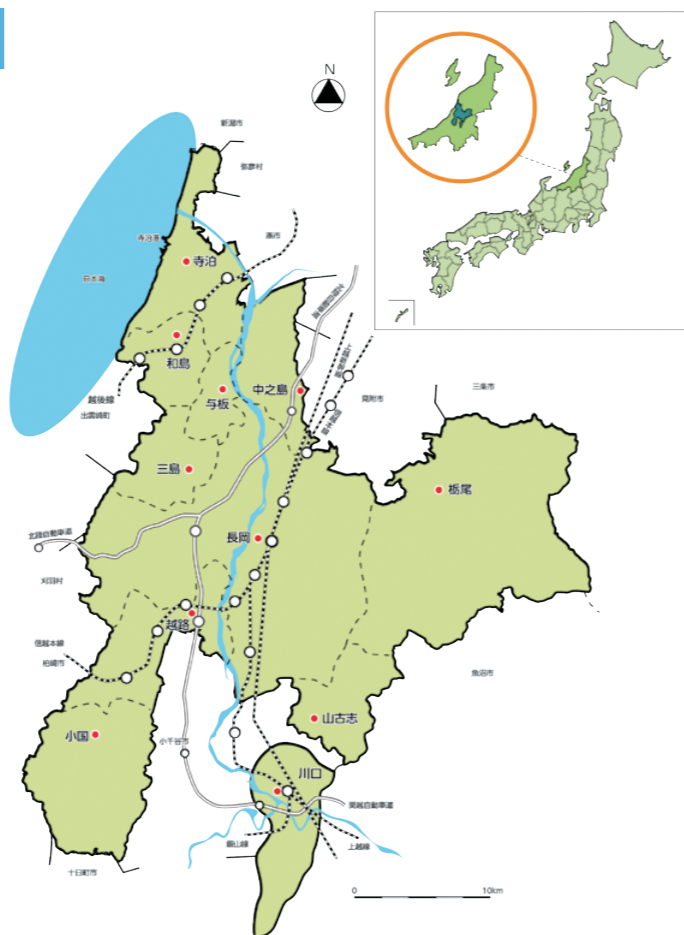
## 位置・地勢

長岡市は、新潟県のほぼ中央部、中越地方に位置し、長岡、中之島、越路、三島、山古志、小国、和島、寺泊、栃尾、与板、川口の11地域で構成されています。

行政区域面積は891.26km<sup>2</sup>で、そのうち約半分が可住地です。市域の中央部を、日本一の長さとし、流量を誇る信濃川が縦断し、その両岸には肥沃な沖積平野が広がっています。さらに東西には東山連峰と西山丘陵が連なり、山岳から丘陵、平野、海岸まで変化に富んだ地勢を有しています。

信濃川沿いの平野部を中心に、都市と農地、森林のバランスがとれた土地利用が行われ、その面積割合は都市地域が約1割、森林地域が約5割、農業地域が約2割となっています。

交通面では、上越新幹線と関越・北陸自動車道が整備され、首都圏や北陸・東北方面とのアクセスが容易であり、こうした自然と交通の恵みが長岡市の魅力を形づくっています。



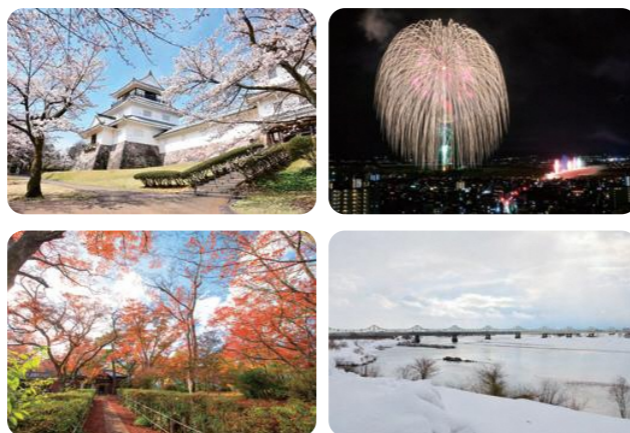
## 気候・自然環境

長岡市は、日本海側特有の気候を有し、夏は高温多湿、冬は北西の季節風が強く、降雪があります。

夏と冬の気温差が大きく、四季の変化がはっきりしており、豊かな自然環境を育む要因となっています。年間降水量の約半分が冬期に集中し、その大部分は降雪によるものです。

山古志や小国、栃尾、川口などの山間部は豪雪地帯として知られる一方、和島や寺泊などの平野部・海岸部では降雪が比較的少なく、地域ごとに異なる気象条件がみられます。

近年では地球温暖化の影響により、夏の酷暑が増え、強雨が増加し、暖冬小雪傾向が強まっています。



## 歴史

長岡市は、世界に誇る縄文文化の象徴「火焰土器」発祥の地です。日本一の大河信濃川が中央部に流れ、東西に丘陵が広がり、河川・陸上・海上の交通が発展し、人と物資が行き交う要衝の地として、まちの歴史を積み重ねてきました。

原始・古代には、国指定史跡の馬高・三十稲場遺跡や八幡林官衙遺跡に象徴される大規模集落や官衙（役所）で人々の生活が営まれ、中世には、戦国大名上杉氏ゆかりの武士たちによって各地に山城や居館が築かれます。近世には、牧野氏の城下町長岡、井伊氏の城下町与板、商業町の栃尾、港町の寺泊、宿場町の川口、幕府代官所の直轄地や出羽国上山藩の分領となった三島・越路地域の農村部など、多様な歴史に育まれた地域が形成されます。これらの地域は、上杉謙信の旗揚げ、直江兼続と妻おせんの縁、良寛と貞心尼の交流、幕末の風雲児・河井継之助の登場など、個性的な歴史上の人物たちの活躍の舞台になっていきます。

発展の歴史の一方、長岡市は、慶応4（1868）年の北越戊辰戦争、昭和20（1945）年の長岡空襲、昭和38（1963）年の豪雪、平成16（2004）年の新潟・福島豪雨と中越大震災など、幾多の戦災や自然災害に見舞われましたが、不撓不屈の精神で乗り越え、復興を遂げてきました。

平成の市町村合併によって、市域は守門岳から日本海まで広がり、個性豊かな地域資源の融合は新しいまちづくりの礎となっています。長岡市は、藩主牧野家の治世下における武士と町人の垣根のない協働の精神や、北越戊辰戦争からの復興と近代化を「米百俵」の精神で成し遂げた先人たちの英知に学び、将来を見据えた人づくり、産業振興に市民協働で取り組んでいます。自然と歴史、文化、そして、人々の絆が響き合うまちとして、長岡市は官民一体となって、その先の未来へとあゆみを進めています。



「米百俵」の精神により開校した国漢学校（左下）

## 長岡市の強み

## 【医療・福祉の充実】

長岡市には、地域医療の中核を担う基幹病院のほか、一般診療所や歯科医院など多数の医療機関が集積しています。これに加え、「休日・夜間急患診療所」「中越こども急患センター」「フェニックスネット<sup>(※)</sup>」などの運営を通じ、医療体制をさらに強化しています。

介護や支援が必要な状況になった時には、地域包括支援センターや幅広いサービスを提供する多くの介護事業所が高齢者や家族の生活を支えます。

市民が住み慣れた地域で安心して生活できる「地域包括ケアシステム」を推進するため、日頃より長岡市と医療機関や介護事業所のほか多様な専門機関が連携し、介護予防から困難な状況に至るまでの支援のあり方を協議できる環境にあることが長岡市の大きな特徴です。

また、時代の変化に伴い、オンライン診療の導入、スマートフォン用の健康アプリ「ながおかウェルネスチャレンジ」など、市民が健康に暮らし続けるために様々な取組を行っています。



中山間地域でも医療体制を確保

※ フェニックスネット：利用者（患者）の情報をタブレットなどICTを用いて関係機関で共有することにより、より安心・適切、かつ効率的な医療・介護の環境を構築するシステムのこと。

## 【多様で活力ある産業基盤】

長岡市は、油田開発を契機に発展した製造業をはじめ、45の産業団地に多数の企業が拠点を構え、雇用を支える産業集積都市としての役割を担っています。産業団地の拡充に取り組むとともに、積極的な企業誘致を進めるほか、近年は、高度な技術力を持つ企業と4大学1高専の「知の集積」を活かし、長岡版イノベーションの推進を通じて、新たな産業の創出や起業・創業を促進しています。

また、国内最大級の埋蔵量を誇る南長岡ガス田で採取・生産した天然ガスは、国内生産量の約4割を占め、県内外の多くの事業者などに供給されています。

日本有数の米どころとしても知られ、全国第2位(令和6(2024)年)の作付面積を誇るコシヒカリ発祥の地です。長年の米づくりで培われた技術は、全国でも高い評価を得ています。米のほかにも、枝豆やレンコンなど様々な野菜、豊富な魚介類など、地域の風土に育まれた農林水産物が生産されています。さらに、日本酒は酒蔵数16と、酒どころ新潟県内で1位、また全国でも2位。摂田屋地区には、昔ながらの製法で作られたみそやしょうゆの老舗が集まり、醸造・発酵文化が根付いています。



長岡市の産業の基盤となる金属加工部品

## 【人材育成と学びの環境】

「米百俵」の精神を受け継いできた長岡市には、人づくりを第一とする理念が根付き、市民もそれを誇りに感じています。

各地域にある「子育ての駅」などの子育て支援施設や、学校と地域が協力して子どもを育てるコミュニティ・スクール、民間企業も参加する長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」など、さまざまな場所で、さまざまな立場の大人たちが、長岡の子どもの成長を見守り、支えています。



子育ての駅みしまもりもり

また、4大学1高専、15専門学校が立地し、学生、教員、研究者が集う活気あふれる学園都市です。高等教育機関による地域への知識の還元も積極的に行われており、教育機関、産業界、行政など、あらゆる関係機関が連携し、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点としながら、オール長岡で人材育成と多世代にわたる学びを推進しています。

## 【恵まれた生活環境と交通アクセス】

長岡市は、新潟県の中央に位置し、上越新幹線や信越本線、関越・北陸自動車道など、首都圏や北陸・東北方面を結ぶ交通の要衝にあり、高速道路のインターチェンジ、広域的なバイパス道路を有しています。近年では長岡西大積スマートインターチェンジや左岸バイパスなどの整備が進み、広域幹線道路網の形成が強化されています。

このほか、上下水道、都市ガスなどの生活インフラや市内・市外各地を結ぶバス、鉄道などの公共交通が整備されています。また、市街地などでは、長岡発祥の消雪パイプや雁木など雪国ならではの知恵を活かした施設が整備されています。

加えて、信濃川の大河津分水路の拡幅工事など、洪水被害への備えが進められています。

守門岳から日本海まで、豊かな自然環境が広がるとともに、本州日本海側で初の国営越後丘陵公園や桜の名所であり歴史ある悠久山公園など、子どもからお年寄りまで広く市内の人から親しまれる憩いの場が整備されています。



長岡北スマートインターチェンジと流通産業団地

## 【豊かな観光資源と食文化】

長岡市は、四季折々の自然景観や食、文化などの多彩な観光資源に恵まれています。日本三大花火のひとつ「長岡花火」は、慰霊・復興・平和への願いを込めた花火として知られ、毎年数十万人の観覧者が訪れます。正三尺玉やナイアガラ、復興祈願花火「フェニックス」など、日本一の大河・信濃川を舞台に壮大な花火の数々が夜空を彩ります。

寺泊の魚市場通りや国営越後丘陵公園、蓬平温泉などの行楽地、そして長岡まつりをはじめとする季節ごとの市内各地のイベントは、多くの人々で賑わい、寺泊・和島の海水浴場や長岡・山古志・栃尾各地域のスキー場では、四季折々のレジャーを存分に楽しむことができます。

また、歴史的資源が多く残る摂田屋・宮内エリアは近年「醸造・発酵のまち」として知名度と集客力を徐々に高めています。

冬の豊かな雪は長岡の誇る重要なブランド・資産であり、地元のお米や野菜をはじめ、雪国の暮らしのなかで育まれた醸造・発酵の文化や、米菓、醤油赤飯、生姜醤油ラーメン、栃尾のあぶらげ、番屋汁など、地域に根差した多様な食文化が市民や観光客に親しまれています。

## 【歴史・文化と特産】

長岡市には、縄文文化の象徴「火焰土器」や国の重要無形民俗文化財「牛の角突き」の習俗をはじめとする歴史と文化があり、そのなかで育まれてきた地域の伝統と産業があります。

中山間地の棚田・棚池を活用した「雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム」は、日本農業遺産第1号に認定されました。日本酒の蔵元数は県内最多を誇り、旧三国街道沿いの醸造のまち摂田屋では、日本酒とともに味噌、醤油などの醸造業が発展しました。

長岡仏壇、脇野町鋸、小国和紙、与板打刃物などの伝統産業も地域に息づき、歴史と文化が共存しています。

## 【市民の精神性と絆】

長岡市は、北越戊辰戦争、長岡空襲、中越大震災など幾多の災禍を乗り越えてきました。「常在戦場」や「米百俵」の精神に象徴される不撓不屈の精神性は、市民の誇りとして受け継がれています。

地域では、町内会・自治会が防災訓練や祭礼行事などの活動や交流を通じて、「自助」「共助」「公助」の連携を進めています。

復興祈願花火「フェニックス」にあらわれた精神性と絆は、長岡市を支える大きな原動力となっています。



復興祈願花火「フェニックス」



長岡発祥の“泳ぐ宝石”錦鯉



米百俵の群像

## 第2節 長岡市をとりまく状況

### 社会情勢

#### 人口減少・少子高齢化の進行

- 日本の総人口は令和7（2025）年1月現在で1億2,355万人で、平成23（2011）年以降、15年連続で減少しています。65歳以上人口は3,619万人で、高齢化率は29.3%と過去最高です。
- 令和6（2024）年の合計特殊出生率は1.15で、昭和22（1947）年の統計開始以降で最も低くなりました。令和6（2024）年に国内で生まれる日本人の子どもは約68万6千人となり、70万人を下回っています。
- 日本の総人口は長期的な減少過程に入っており、総人口は令和13（2031）年に1億2,000万人を割り、令和38（2056）年に9,965万人、令和52（2070）年に8,700万人へ減少すると推計されています。
- 政府は地方創生を推進し、人口減少を前提とした経済成長と社会の維持を目指しています。東京一極集中の見直しや地域経済を支える人材活用の強化、地方における若者や女性に選ばれる職場と暮らしの実現に向けた取組を推進しています。

#### 継続する物価上昇、成長型経済へ分岐点

- 物価上昇が続く中、賃上げや投資による所得と生産性の向上が伴わなければ国民生活は一層厳しくなるため、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への移行が課題となっています。
- そこで、国は経済成長に向けたDX<sup>(※1)</sup>・GX<sup>(※2)</sup>の推進、イノベーション創出に向けた投資やスタートアップ支援に注力する方針です。
- また、個人や企業のリスキリング<sup>(※3)</sup>を促すため、デジタルスキルや高度専門職スキル習得への補助などの人材投資を強化しています。

#### 人工知能（AI）などのデジタルテクノロジーの発展

- 令和2（2020）年頃から生成AIが急速に普及し、文章や画像を生成するなど革新技术として注目され、ビジネスや生活に浸透してきています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で宅配需要が増加し、自動走行ロボットの需要も急伸びしました。世界各国で配送用ロボットの民間利用と環境整備が進んでいます。
- また、地域の移動や物流の担い手不足を解消するため、自動運転の研究・実用化が加速しており、今後は高速道路や幹線輸送での自動走行技術の導入が目指されています。

#### 気候変動・自然災害・鳥獣被害の増加

- 近年、線状降水帯による記録的豪雨、大型化・予測困難な台風、異常な猛暑が頻発しています。また、日本各地で大規模地震も発生していることから、防災意識を高め「自らの命は自ら守る」「地域で助け合う」体制の構築が求められています。
- 地球温暖化で気温・海水温が上昇し、豪雨や猛暑など気象災害が激甚化しています。このリスク増大に対応するため、温室効果ガス排出の削減や、再生可能エネルギーへの転換を加速させるなど脱炭素・GXの推進が必要とされています。
- 「持続可能な開発目標（SDGs）<sup>(※4)</sup>」17目標のうち13が環境分野であり、環境省は気候変動対策と循環型社会の構築に向けた施策を積極的に展開しています。
- 近年、温暖化の影響による生息環境の変化、狩猟者の減少や人間の生活圏の変化など、様々な要因によりク

マなどの野生鳥獣による被害が急増しています。市民の安全安心を守るため、関係機関と連携した体制整備と機動的な対策が急務です。

#### ウェルビーイング<sup>(※5)</sup>や多様性の重視

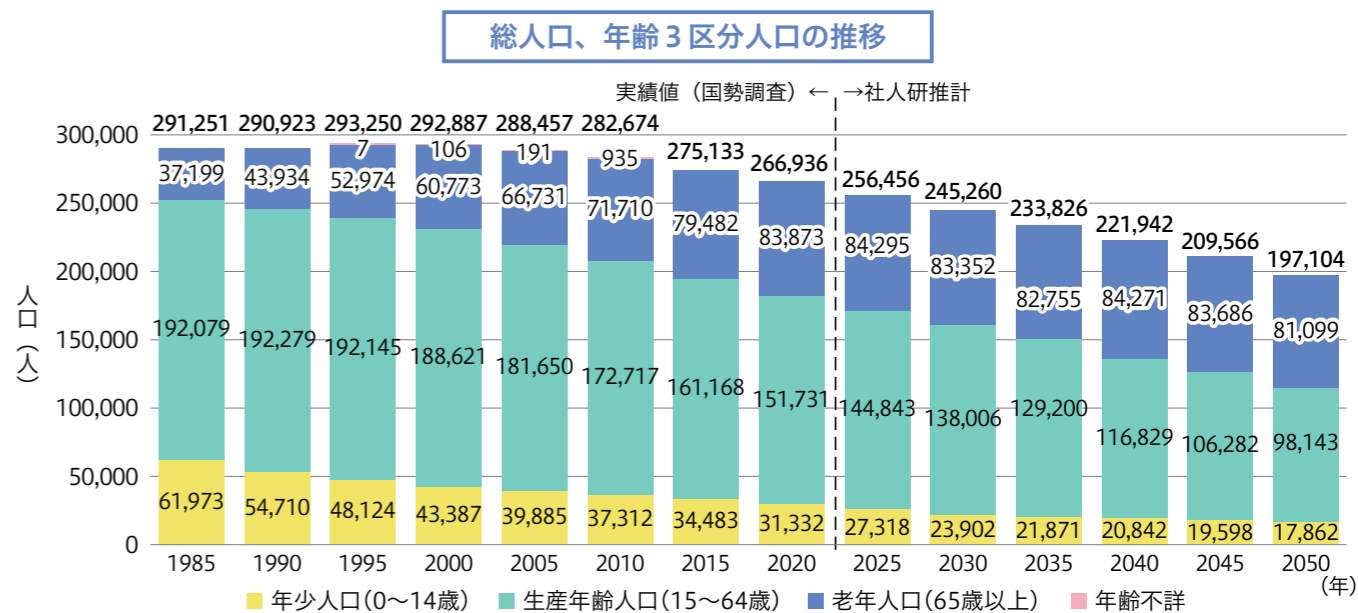
- 客観的・物質的な豊かさよりも、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指す幸福度やウェルビーイング（Well-being）を重視する価値観が広がっています。政府も各種基本計画において、ウェルビーイング関連のKPI<sup>(※6)</sup>を設定しています。
- また、多様性と個性の尊重が浸透し、ジェンダー、病気や障害の有無、宗教、国籍などに依らない平等な機会の提供と共生を目指す社会を重視する価値観が拡大しています。

### 長岡市の現状

#### 1. 人口

##### 1-1. 総人口、年齢3区分人口の推移

- 長岡市の総人口は、平成7（1995）年の293,250人をピークに年々減少しており、令和2（2020）年には266,936人になっています。
- 本総合計画の最終年度の令和17（2035）年には233,826人（令和2（2020）年の88%）、令和32（2050）年には197,104人（令和2（2020）年の74%）まで減少する見込みです。
- 年少人口（0～14歳）は減少を続けており、昭和60（1985）年の61,973人から、令和2（2020）年には31,332人となり、令和32（2050）年には17,862人（令和2（2020）年の57%）まで減少する見込みです。
- 生産年齢人口（15～64歳）は平成2（1990）年の192,279人から減少を続けており、令和2（2020）年には151,731人となり、令和32（2050）年には98,143人（令和2（2020）年の65%）まで減少する見込みです。
- 一方、老年人口（65歳以上）は増加を続けており、昭和60（1985）年の37,199人から、令和2（2020）年には83,873人となり、令和22（2040）年の84,271人まで増加を続け、令和32（2050）年には81,099人（令和2（2020）年の97%）となる見込みです。



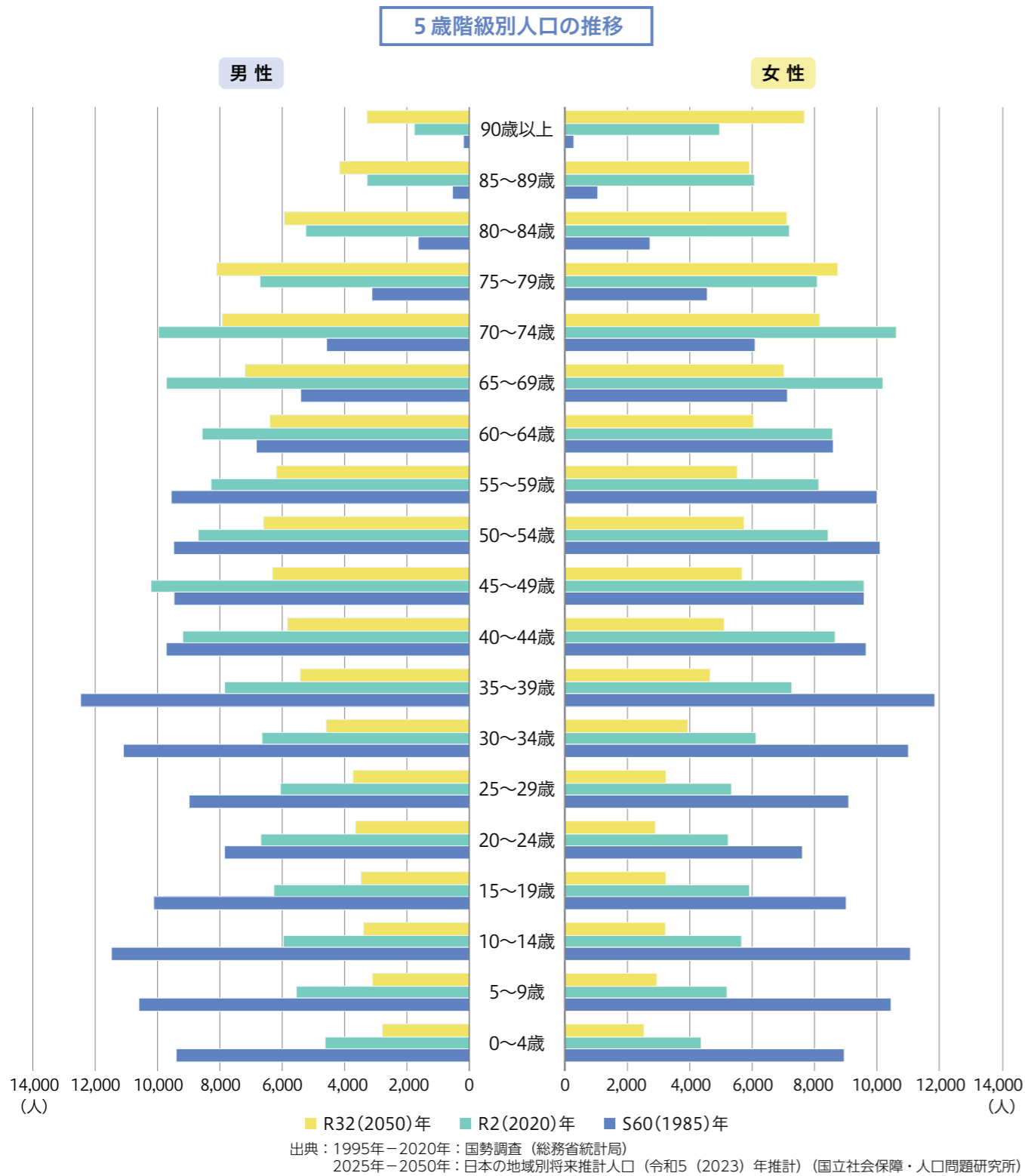
出典：1995年～2020年：国勢調査（総務省統計局）  
2025年～2050年：日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）  
注記：2015年及び2020年は不詳補完値による。

※5 ウェルビーイング：ウェルビーイング（Well-being）は、well（よい）とbeing（状態）からなる言葉であり、心身ともに健康で、社会とのつながりの中で安心して自分らしく暮らせる、幸福で満たされた状態のこと。  
※6 KPI:Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略のこと。目標達成度を測定するための指標で、施策の進行状況を評価するために使用される。

※1 DX：Digital Transformationの略。デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへ変革すること。  
※2 GX：Green Transformation（グリーントランスフォーメーション）の略。化石燃料に頼らず、太陽光や水素など自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用を進めることで二酸化炭素の排出量を減らそう、そうした活動を経済成長の機会にするために世の中全体を変革していこうという取り組みのこと。  
※3 リスキリング：新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルや知識を獲得すること。  
※4 SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。国連が定めた2030年までに達成すべき17の目標で、貧困撲滅、環境保護、平等の推進など、世界全体で持続可能な社会を築くことを目指している。

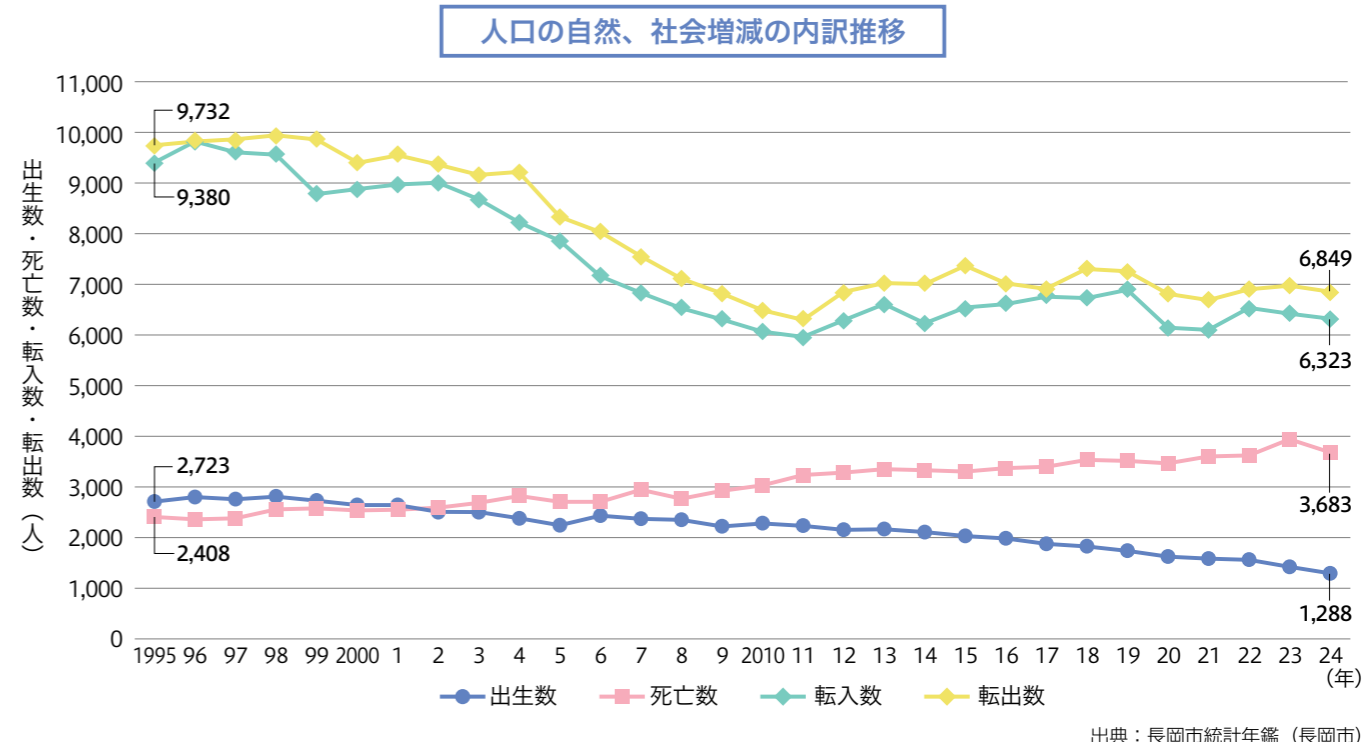
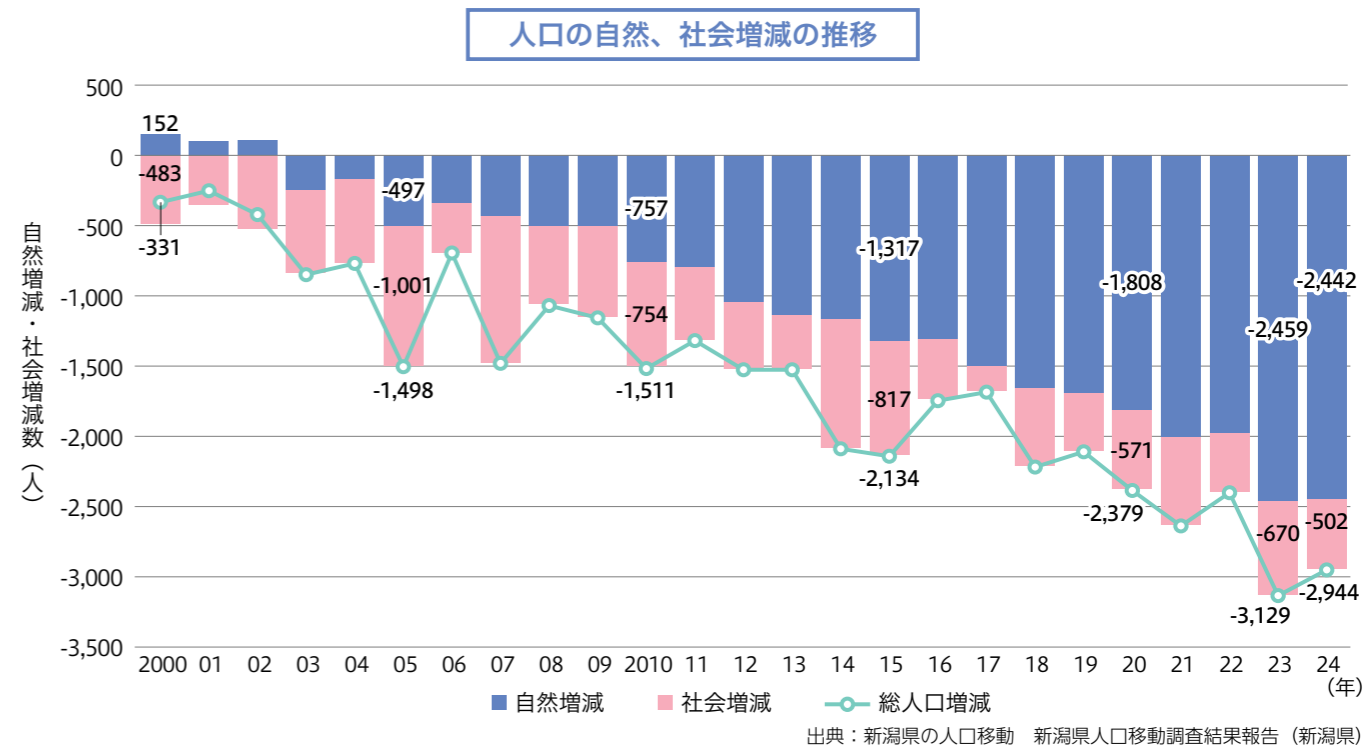
### 1-2. 5歳階級別人口の推移

- 長岡市の5歳階級別人口は、昭和60（1985）年では男性、女性ともに5～14歳や30～39歳の人口が多く、65歳以上の人口が少ない状況でした。
- しかし令和2（2020）年では、0歳～44歳全ての階級で減少傾向にあり、65歳以上は増加傾向にあります。
- 令和32（2050）年では、この傾向はより顕著となり、65歳以上の人口構成がいずれの階級よりも多くなり、特に75～79歳の人口が最も多く、次いで70～74歳の人口が多い構成になる見込みです。



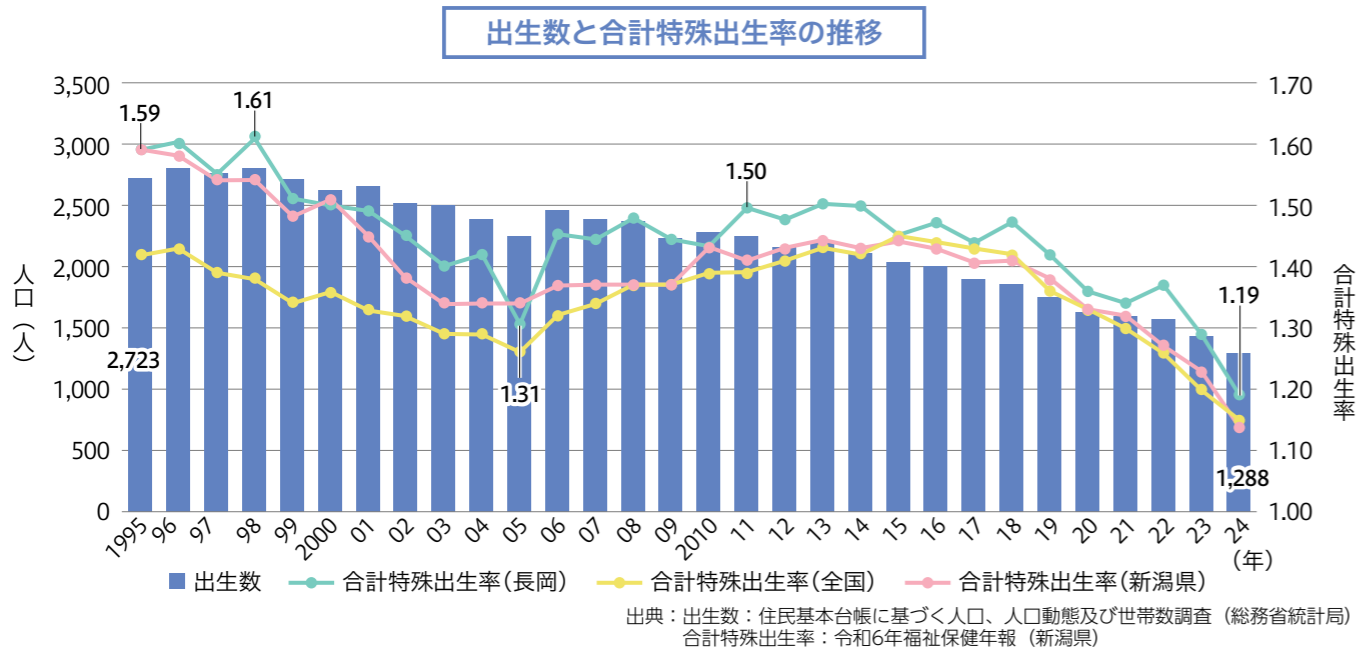
### 1-3. 人口の自然増減、社会増減の推移

- 長岡市では人口減少が継続しており、令和6（2024）年は2,944人が減少しています。
- 自然増減については、出生率低下・母親世代人口減少の影響による出生数の減少、老年人口の増加に伴う死亡数の増加によって平成15（2003）年以降、死亡数が出生数を上回っておりその差分は年々拡大傾向にあります。
- また、平成12（2000）年以降、転出者が転入者を上回る社会減は、一定の幅で継続しています。

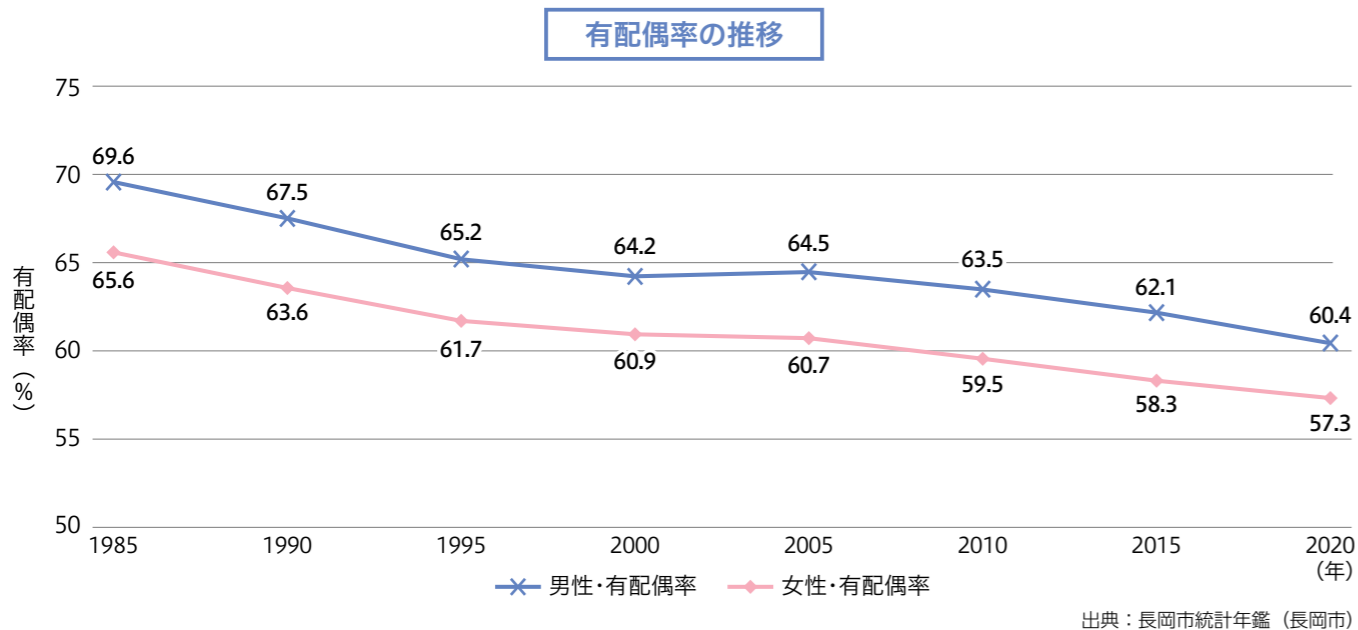


### 1-4. 人口の自然動態<sup>(※)</sup>の現状

- 長岡市の出生数は、減少傾向にあり、平成7（1995）年の2,723人から令和6（2024）年には1,288人と、平成7（1995）年の約47%まで減少しています。
- 長岡市の合計特殊出生率も減少傾向であり、平成10（1998）年の1.61から平成17（2005）年の1.31まで減少を続けたものの、平成23（2011）年には1.50まで回復しています。しかし、平成30（2018）年以降は再度減少傾向にあり、令和6（2024）年は1.19となっています。なお、平成22（2010）年以降は、全国、新潟県の双方よりも概ね高い合計特殊出生率となっています。

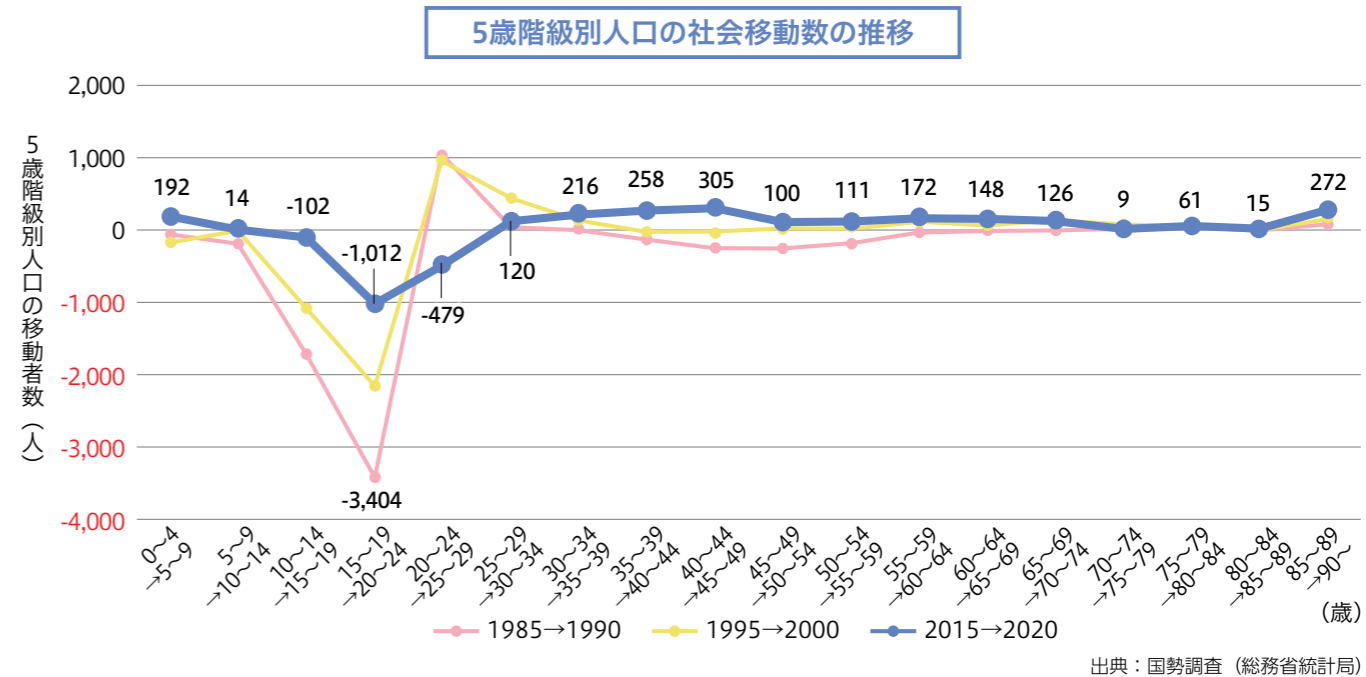


- 有配偶率は、男性のほうが女性より高い割合で推移しています。
- 有配偶率は男女ともに減少傾向にあり、令和2（2020）年には男性は60.4%、女性は57.3%まで減少しています。

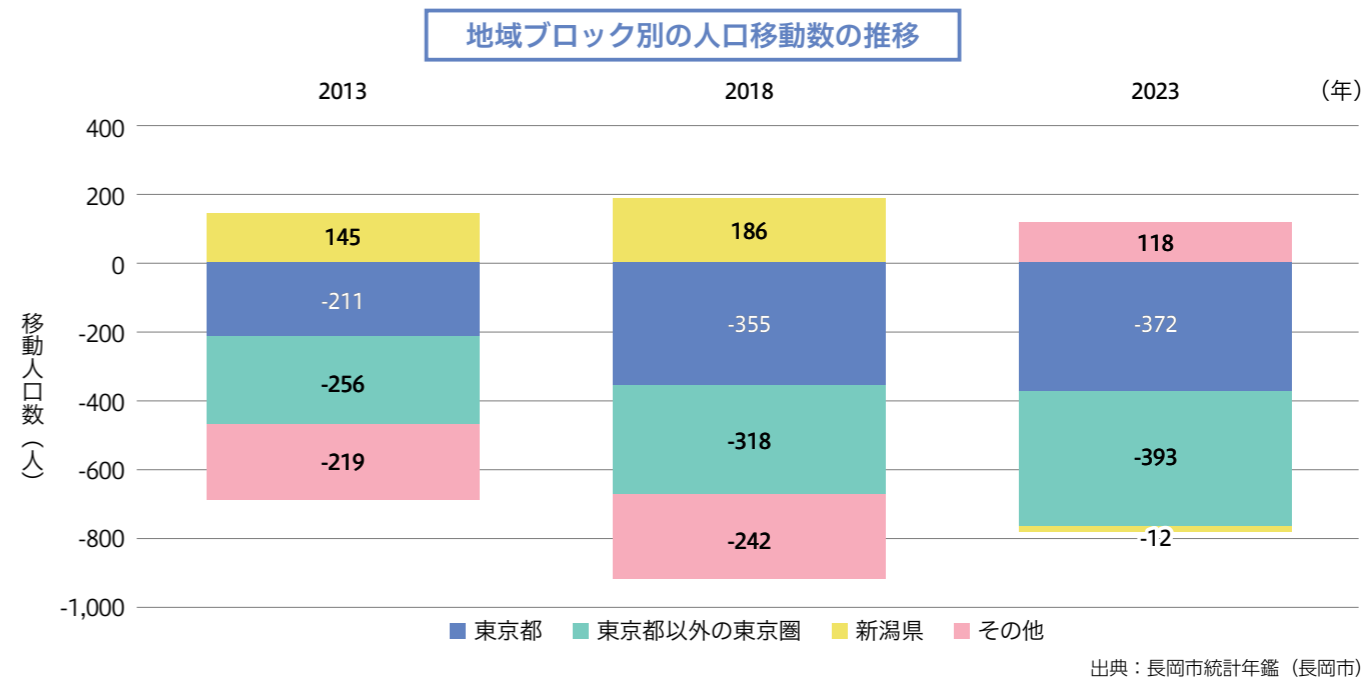


### 1-5. 人口の社会動態<sup>(※1)</sup>の現状

- 5歳階級別人口の社会増減では、15～19歳の世代が20～24歳の世代になるときの社会減が最も多い傾向が続いています。
- 昭和60（1985）年→平成2（1990）年では3,404人の社会減に対し、平成27（2015）年→令和2（2020）年は1,012人の社会減と減少幅は減少傾向になっています。
- 20～24歳から25～29歳は平成12（2000）年までは社会増でしたが、以降は社会減となり、平成27（2015）年→令和2（2020）年は479人の社会減となっています。



- 近年、東京都をはじめ東京圏<sup>(※2)</sup>への転出超過が拡大しており、平成25（2013）年は東京圏全体で467人の転出超過であったのが、令和2（2023）年には765人の転出超過となっています。

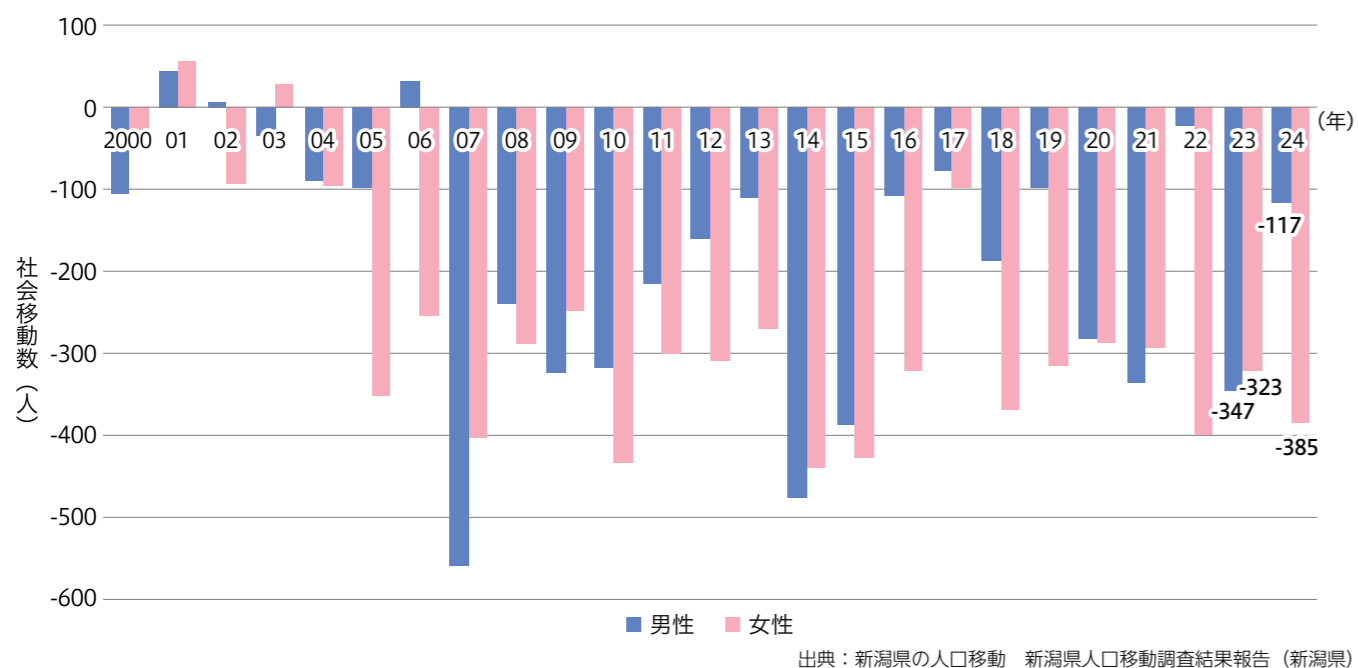


※ 自然動態：一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き。

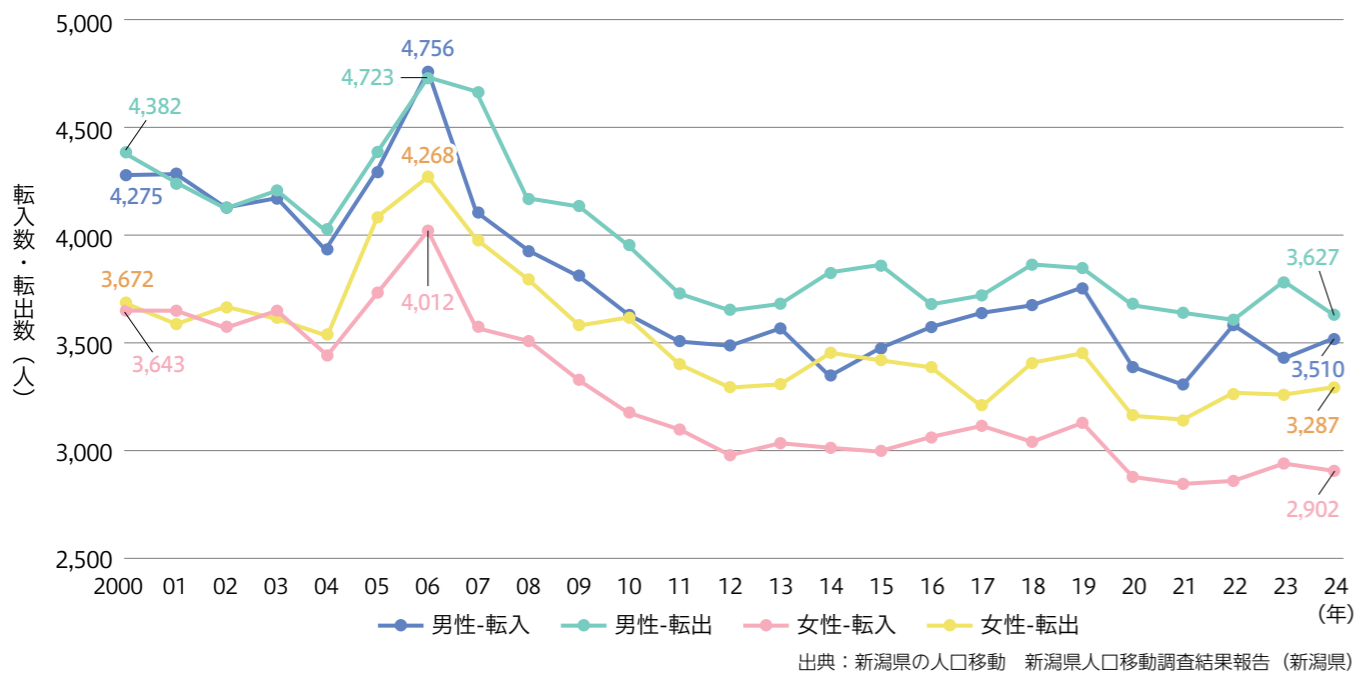
※1 社会動態：一定期間における転入、転出及びその他の増減に伴う人口の動き。  
※2 東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

- 男性は平成19（2007）年以降、女性は平成16（2004）年以降、転出数が転入数を上回る社会減の状況が続いています。
- 男性は、年によって100人未満から300人以上と人数の変動はあるものの社会減が続いており、令和6（2024）年には117人の社会減となっています。
- 女性は、平成30（2018）年以降、毎年300人～400人程度の社会減の傾向が続いており、令和6（2024）年には385人の社会減となっています。

男女別の社会増減数の推移



男女別の転入数・転出数の推移

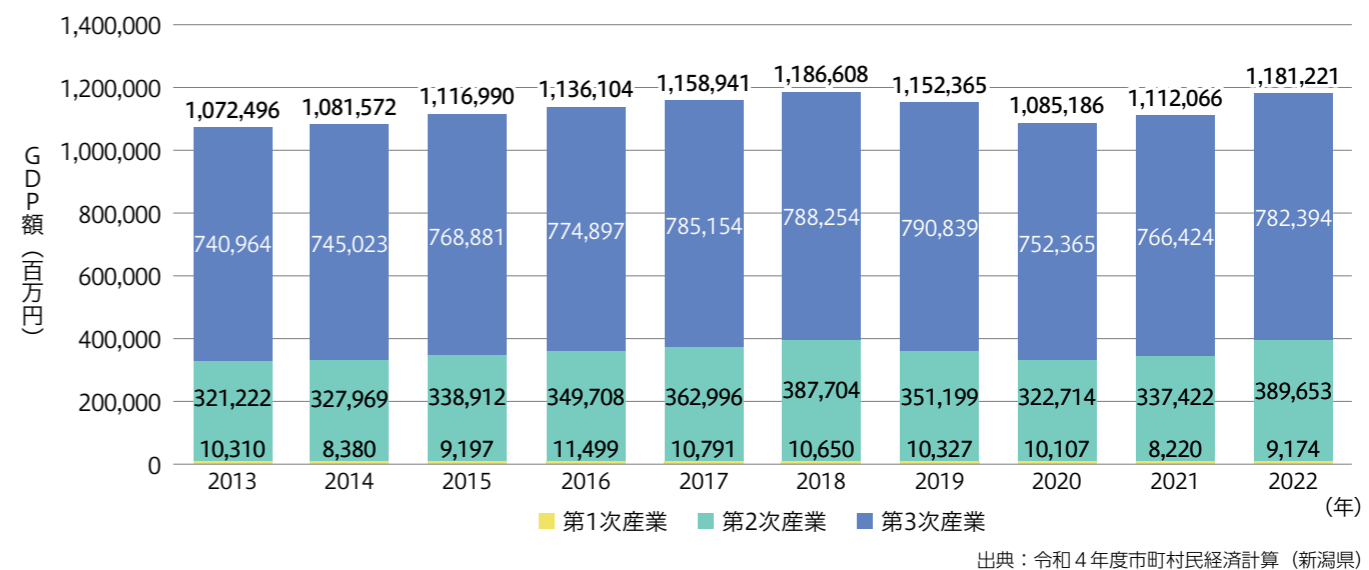


## 2. 経済

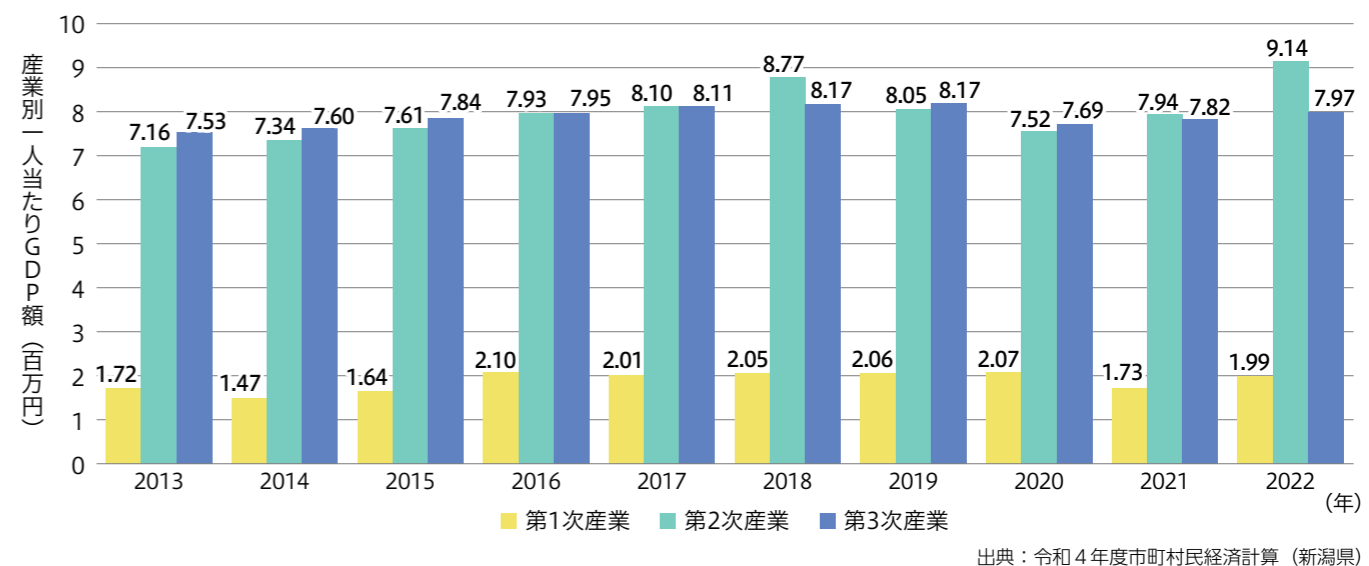
### 2-1. 市町村内総生産（GDP）の推移

- 長岡市における市町村内総生産（GDP）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一時的に減少したものの、令和4（2022）年には1兆1,812億円と、コロナ禍前（平成30（2018）年）の99.5%まで回復しています。産業別の構成比率としては第3次産業が全体の66.2%を占めています。
- 就業者一人あたりのGDPについて、第2次・3次産業では700～800万円程度で推移しており、平成30（2018）年以降はやや減少傾向にあります。第1次産業は平成28（2016）年以降、200万円程度で横ばい傾向にあります。
- 就業者数全体では平成27（2015）年から令和4（2022）年にかけて1.85%の減少が見られました。
- 令和2（2020）年の産業別就業者数は、製造業、卸売・小売業、医療・福祉の順に多い状況です。

市町村内総生産（GDP）の推移

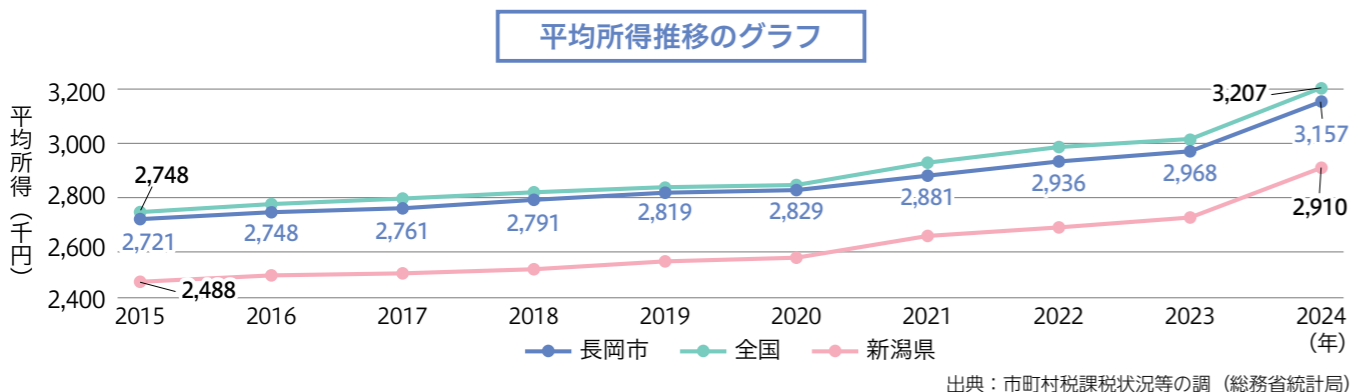


一人あたり市町村内総生産（GDP）の推移



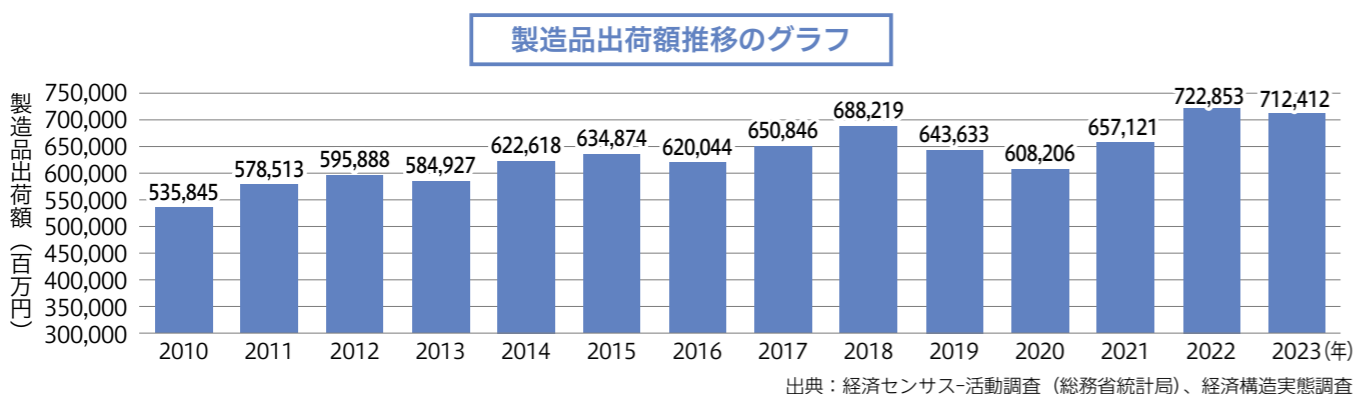
## 2-2. 平均所得の現状

●長岡市の平均所得は、平成27(2015)年の2,721千円から、令和6(2024)年には3,157千円まで増加しており、新潟県平均よりも高く、全国平均に近い推移になっています。



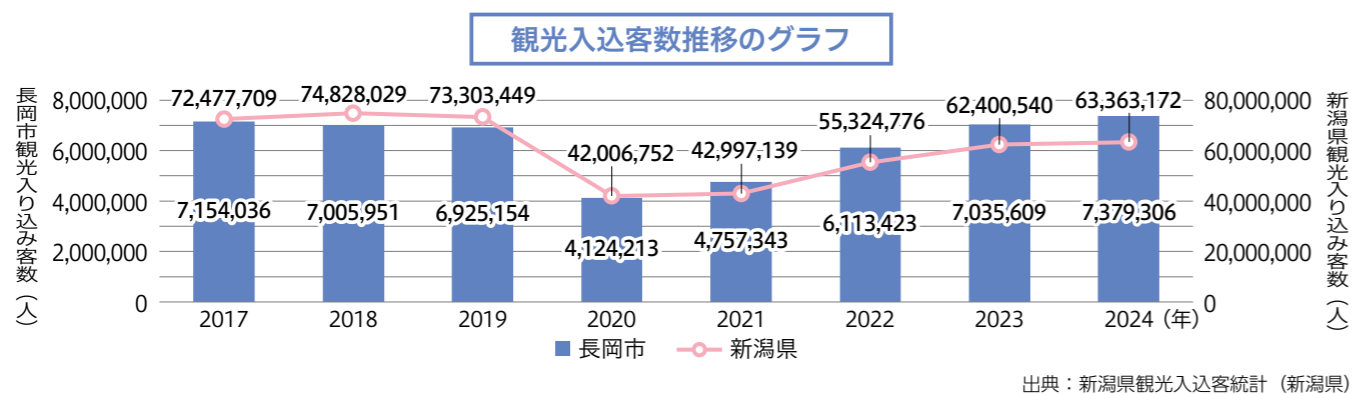
## 2-3. 製造業の現状

●製造品出荷額は、平成22(2010)年の5,358億円から平成30(2018)年には6,882億円へと増加したものの、令和2(2020)年には6,082億円まで減少しています。その後は増加傾向にあり、令和5(2023)年には7,124億円まで増加しています。



## 2-4. 観光業の現状

●観光入込客数は、令和元(2019)年までは700万人程度で推移していましたが、令和2(2020)年には新型コロナウイルス感染症の影響で412万人まで減少しました。しかし、令和3(2021)年以降は回復傾向となり、令和6(2024)年には737万人となりました。



## 3. 市民生活

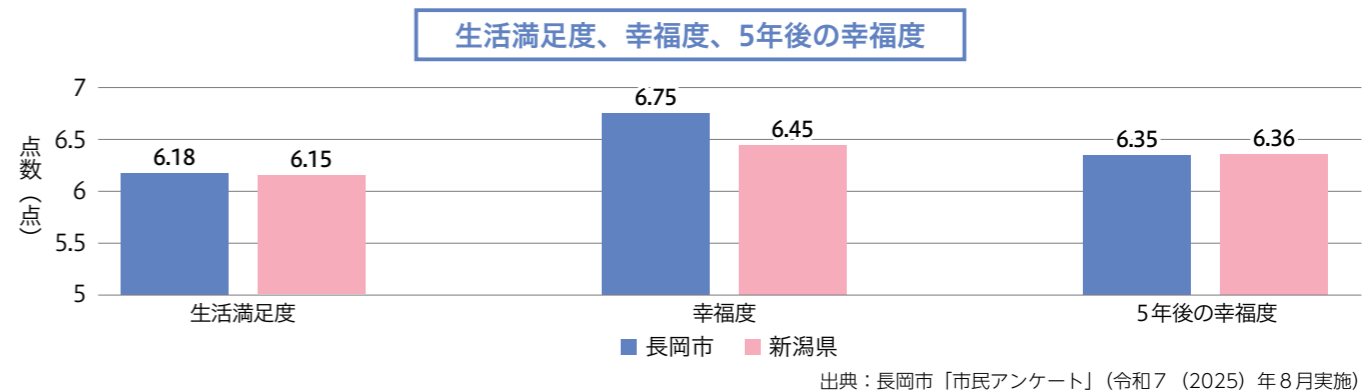
### 3-1. 市民の生活満足度、幸福度

●令和7(2025)年8月に実施した市民アンケート調査にて、生活満足度、現在の幸福度、5年後の幸福度について各10点～0点の11段階で調査を実施しました。

●その結果、生活満足度は平均6.18点、幸福度は6.75点、5年後の幸福度は6.35点でした。新潟県全体での平均は、生活満足度6.15点、幸福度6.45点、5年後の幸福度6.36点であり、これと比較すると、長岡市の生活満足度と5年後の幸福度は同程度であり、現在の幸福度はやや高いといえます。

●新潟県全体と同様に、長岡市も現在の幸福度よりも5年後の幸福度が低い結果となっています。

●5年後の幸福度が低い理由については、いずれの年代にも共通して物価上昇に伴う経済的な不安が多く見られました。年代別では、10歳代では就職後の生活に関する不安や、20歳代では仕事による負担、30、40歳代では子育てに関する精神的・経済的負担、40～50歳代では親の介護や自身の健康に関する不安、60歳代以降では健康や生活費に関する不安や、子どもや友人と会う機会が減ることによる寂しさが多くあげられています。



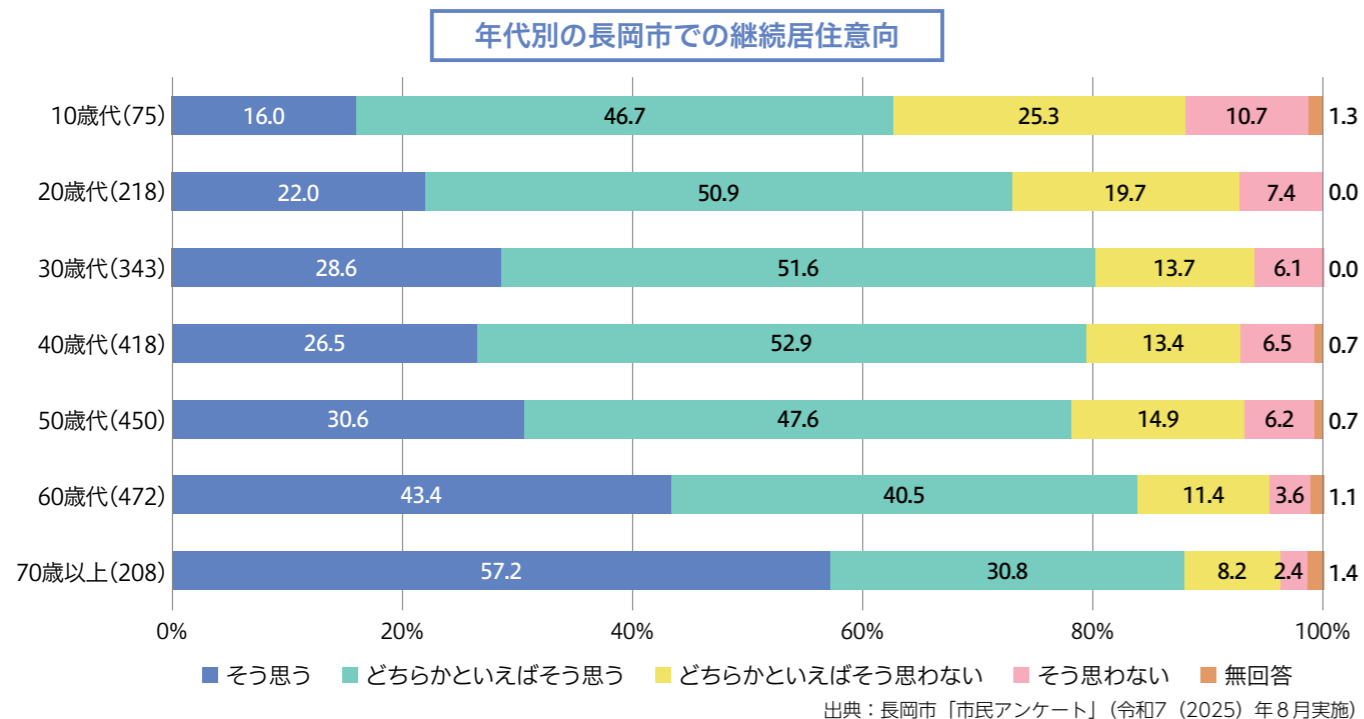
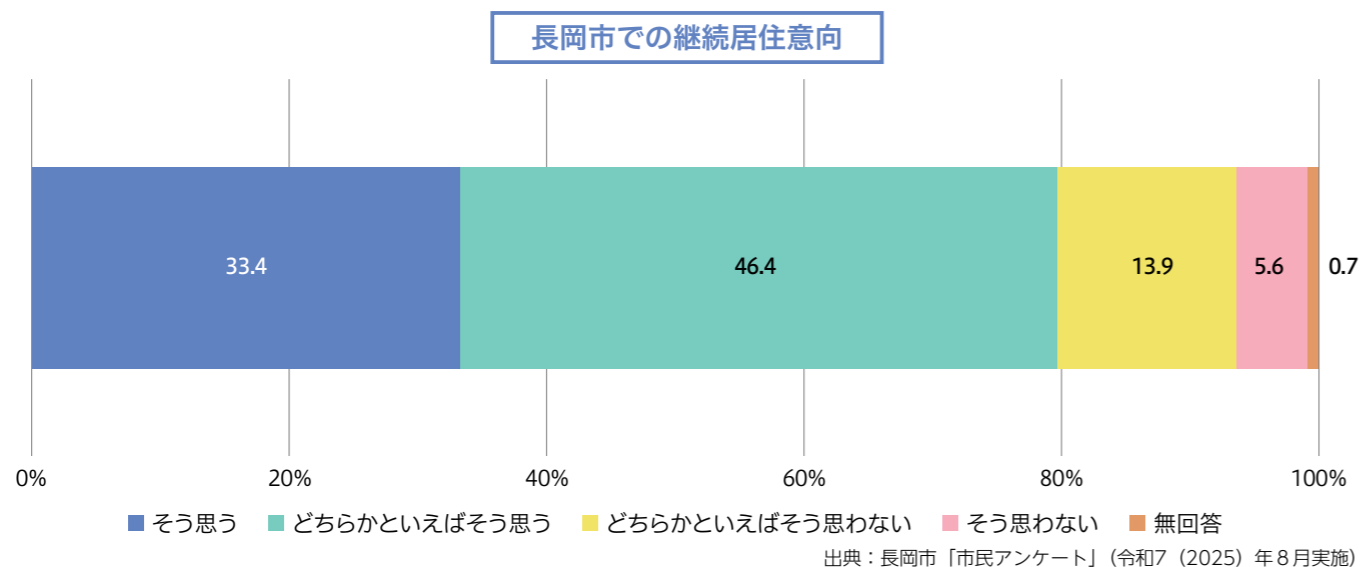
### 5年後の幸福度が低い主な理由

10歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学卒業後、社会に出た時に多くの苦勞をしそうだから。</li> <li>・駅周辺が廃れており、楽しみが少ないから。</li> </ul>
20歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職に就いて多忙になりそうだから。仕事が忙しすぎるから。</li> <li>・税金や物価が上がりそう一方で、給料は低く、金銭面の不安があるから。</li> </ul>
30歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育費、病院費がかさむことや、物価高騰することが予測でき、それに耐え得る収入を維持できるか不安だから。</li> <li>・経済の悪化により物価がさらに高くなるのに賃金は低いから。</li> </ul>
40歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが大学生となって長岡を離れてしまうし、子育てがひと段落して生き甲斐が減ってしまうから。</li> <li>・親の介護や教育費がかかってきそうだから。</li> <li>・福祉への制度が不十分と考えるから。</li> </ul>
50歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、もしくは自身の健康状態の悪化による失職や介護、それに伴い経済的に不安だから。</li> <li>・公共交通の維持・確保が難しくなりそうだから。それにより生活しづらくなりそうだから。</li> <li>・年齢が上がり健康面や金銭面で不安があるから。</li> </ul>
60歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働けなくなるため、年金だけで生活できるか心配だから。</li> <li>・子どももおらず、いずれどちらかが独りになったときのことを不安に感じるから。</li> </ul>
70歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金とアルバイト収入だけだと物価高騰で将来の生活が不安になるから。</li> <li>・高齢になり買い物、通院が自由にできないと思うから。</li> <li>・体が思うように動かなくなり、友達とお話することが少なくなりさみしいから。</li> </ul>

出典：長岡市「市民アンケート」(令和7(2025)年8月実施)

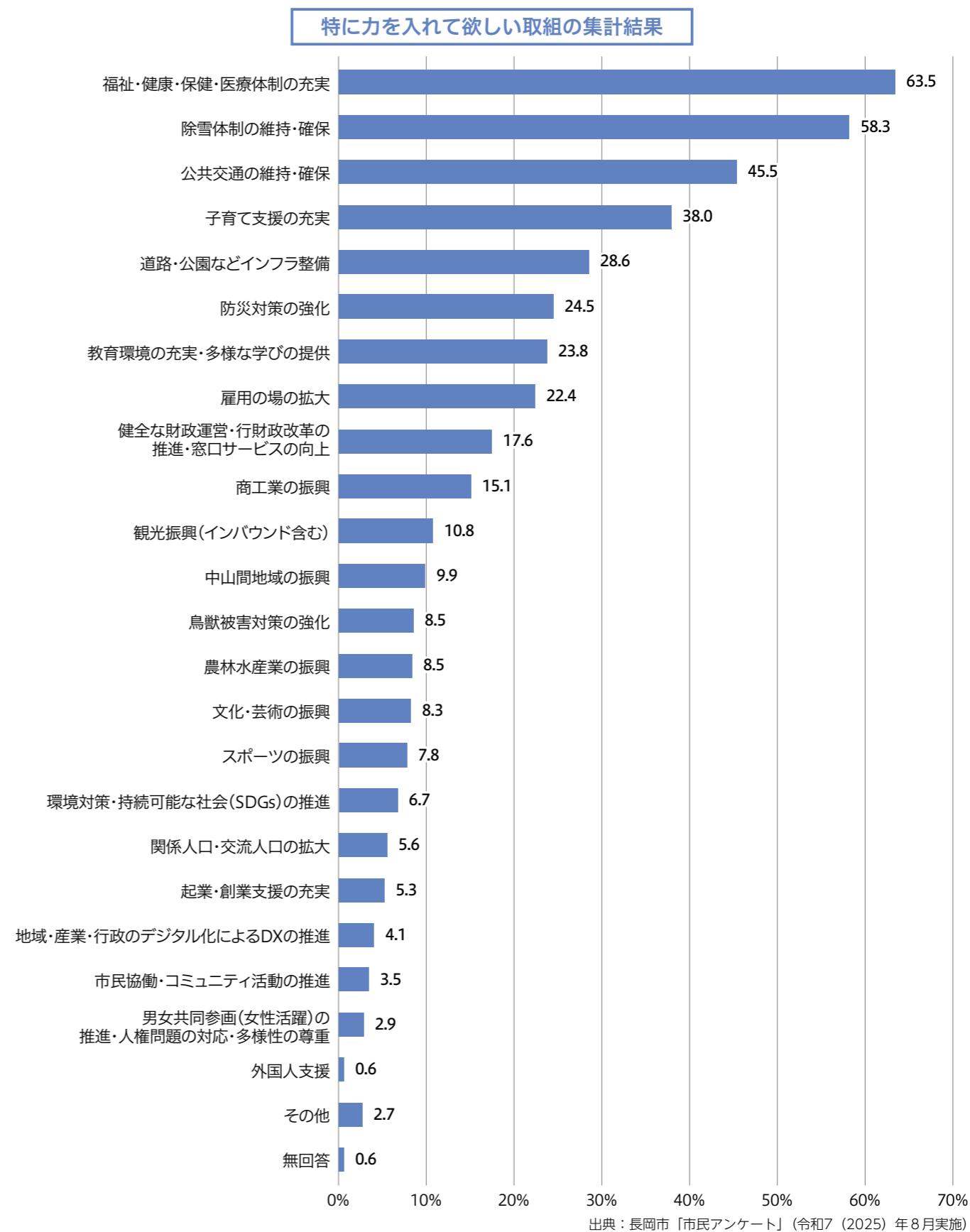
### 3-2. 長岡市における継続居住意向

- 令和7（2025）年8月に実施した市民アンケート調査にて、ずっと長岡市に住み続けたいかについて調査を実施しました。
- その結果、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は79.8%となり、約8割の回答者が住み続けたい意向を示していました。
- ずっと長岡市に住み続けたいかについて、年代別の結果を確認したところ、年代が上がるにつれて「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」の回答割合が多くなる傾向が見られました。



### 3-3. 特に力を入れて欲しい取組

- 特に力を入れてほしい取組についてアンケート調査を実施したところ、「福祉・健康・保健・医療体制の充実（63.5%）」、「除雪体制の維持・確保（58.3%）」、「公共交通の維持・確保（45.5%）」、「子育て支援の充実（38.0%）」といった取組が上位にあがっています。



3-4. 主な市民の意見

福祉・医療

- ・ 中心地以外でも健康寿命を延ばす政策の恩恵を受けられるようにしてほしい
- ・ 不妊治療への支援が少ない
- ・ 高齢者、障害者、ひきこもりへの支援、ケアサービスを充実してほしい
- ・ 病気になったときに自立支援医療の補助があり助かった

安全・安心

- ・ 避難所のプライバシー確保や暑さ・寒さ対策に力を入れてほしい
- ・ 街灯が少ない、道路の白線が消えているところが多い
- ・ 原発を稼働させないでほしい
- ・ 人口が少なくても人が安心して暮らせる街づくりをしてほしい
- ・ 長岡駅の鳥害対策、イノシシ・熊対策を早急にお願いしたい

産業

- ・ 企業・商業施設の誘致に力を入れてほしい
- ・ 起業支援など若者が定着する施策を進めてほしい
- ・ 多様な方々が就職、再就職をしやすい様な手厚いサポートを充実してほしい
- ・ 若者が結婚して生活が成り立つような雇用を作り出してほしい
- ・ 地場産業を守るためにも事業承継やM&A推進を頑張してほしい

行財政

- ・ 市の予算の使い方や金額を分かりやすく市民に知らせてほしい。長期的にまちの発展につながる使い方であれば、納得する市民も多いと思う
- ・ 老朽化している公共施設の整理が必要
- ・ スマホを利用した、サービス、手続きがどんどん増えている。高齢者を対象にした学習会などの取組を増やしてほしい

子育て・教育

- ・ 子どもの医療費、保育料の軽減、病児保育を充実してほしい
- ・ 保育園の年度途中入園がしやすい環境にほしい
- ・ 2人目、3人目の子どもが欲しいと思っている親への支援を手厚くしてほしい
- ・ 米百俵の精神に基づき、次世代の教育に予算をつけるべき
- ・ 若い人が勉強できるよう、学生に視点を置いた政策、設備を作してほしい

まちづくり・インフラ

- ・ 合併地域の生活を保障しつつ、コンパクトシティを目指してほしい
- ・ バスの増便、コミュニティバス、小型バスなど公共交通の維持してほしい
- ・ 市街地の空き家対策をさらに強化してほしい
- ・ 農地の買売がスムーズにできる方法を検討してほしい
- ・ 機械除雪や消雪パイプによる除雪体制の強化と質の向上に取り組んでほしい
- ・ 高齢者ドライバーの免許返納後の支援を進めてほしい

観光・交流

- ・ 花火以外の観光客を！市民が何度も行きたくなる場所を！
- ・ 摂田屋の雰囲気がとても良い、他県の友人を連れて行ける
- ・ 産業や自然を活かした誘客の場作り、市外からの通年誘客できるエリアが誕生することを願っています
- ・ 道の駅は地元野菜なども豊富にあるべき。気軽に利用できるように

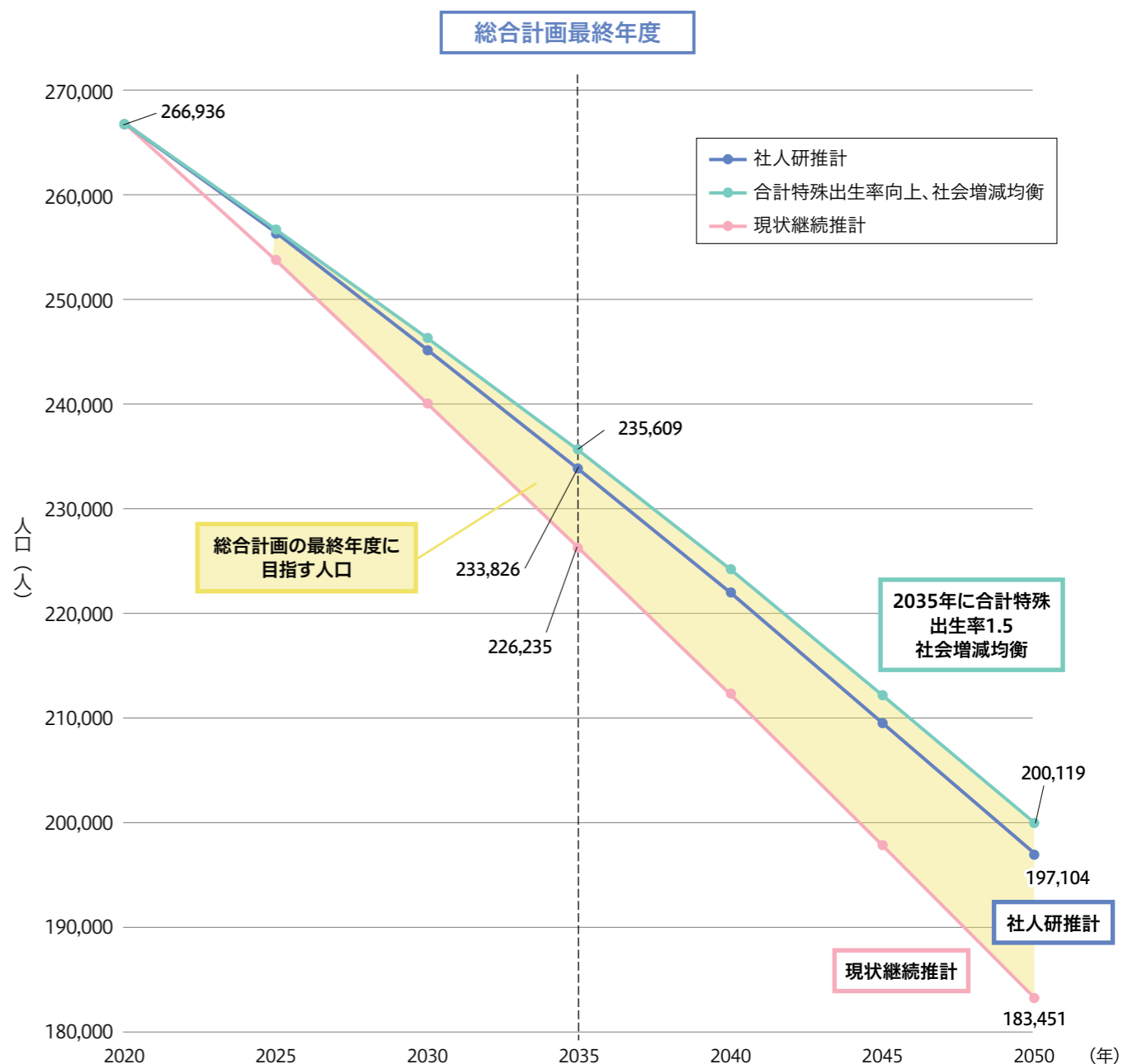
その他

- ・ 若者が都心に行くことは避けられない。都会と地方で仕事のすみ分けを
- ・ 学業・就業における一時的な人口減少は仕方ない。地域に魅力があれば関係は切れない
- ・ 地域コミュニティの維持に限界が来ている。外部委託などを視野に入れたプランニングの検討が必要

第3節 人口の将来展望

人口減少を緩やかにすることで、現状継続推計を上向きに押し上げることを目指す。

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）が令和5（2023）年4月に公表した「日本の将来人口推計」では、計画最終年度の令和17（2035）年に233,826人、令和32（2050）年に197,104人となる見通しです。
- ・ しかしながら、現在の人口減少の傾向が今後も続くと、令和17（2035）年には226,235人となり社人研推計を約7,600人下回る見込みです。
- ・ 令和17（2035）年に合計特殊出生率上昇（1.19から1.5）、社会増減均衡（502人減から社会増減0人）を達成した場合、235,609人となり社人研推計を約1,800人上回る見込みです。
- ・ 計画最終年度を迎える令和17（2035）年に向けて、合計特殊出生率向上、社会増減均衡を目指し、現状継続推計を上回る人口となることを長岡市の将来展望とします。



## 第4節 まちの将来像

変わるれ!  
宣言

キャッチフレーズ

変わるれ! 長岡

# 住み続けたい戻ってきたい選ばれるまち

## ～イノベーション先進都市～

日本は今、加速する人口減少や少子高齢化、不透明感を増す経済情勢など先の読めない大変困難な時代を迎えています。AI時代の到来、社会・経済構造の歴史的な大転換期にあり、長岡市を取り巻く環境も大きく変化しています。

こうした激動の中でこそ、各地域で培ってきた文化・歴史・精神性や先人たちから受け継がれてきた「米百俵」の精神と「協働」によるまちづくりという長岡市の原点に立ち返り、市民、企業、行政などが一丸となって地域課題に立ち向かっていかなければなりません。時代の潮流や世界の動きを的確に捉え、良いものは残しつつ、変えるべきところはダイナミックに変えていく必要があります。

長岡市は、明治以降、人づくりと産業振興において、固定観念にとらわれず新しいことに挑戦し、未来への投資に取り組んできました。イノベーションに挑戦することで発展してきたまちであり、この精神こそが長岡市の原点であり、強みです。

キャッチフレーズ「変わるれ! 長岡」は、従来のやり方や現状に甘んじない、変革=イノベーションの決意を長岡の方言で表しています。

長岡市が持続的に発展するためには、さらなるイノベーションに挑戦し、新たな価値を創造する産業の振興を通じて都市の魅力や拠点性を高めるとともに、行政サービスの改革を通じて市民生活の質の向上を図っていくことが重要です。

イノベーションの先進都市として、市民一人ひとりが人らしく幸せを実感し、住み続けたいと思えるまちとなるとともに、その存在感を高めることで人を惹きつけ、離れても戻ってきたいと思えるまちとなり、全国・世界の人々や企業から選ばれるまちとなることを目指します。



## 第5節 基本目標

## 基本目標 誰にも優しく寄り添う共生社会のまち

変わるれ!  
宣言

誰もが実感! 多様性を認め合い、自分らしく暮らせるまち

もっと元気なまちへ! 市民の「やりたい」をサポート強化!

「高齢になっても、安心して生活できる」という声、倍増!  
希望あふれる健康福祉都市へ

- 困難に直面している人々に寄り添い、誰もがいきいきと暮らせる社会を実現します。人と人が出会い、思いや課題を共有しながら、知恵を出し合い、新たな価値を生み出す「市民協働のまち長岡」の実現を目指します。
- さまざまな背景や立場に関わらず、多様な価値観を認め合いながら、お互いを尊重し協力しあう社会を実現していきます。

## 基本目標 子ども・若者が夢や希望をもち、誰もが学び続けることができるまち

変わるれ!  
宣言

誰もが学びに熱中できる 日本一質の高い教育のまち

育つよろこび 育てる幸せ 日本一子育てしやすいまち

生涯にわたり、学ぶ楽しさ、チャレンジする意欲が持てるまち

- 人づくりはまちづくりとする「米百俵」の精神を受け継ぎ、ふるさと長岡に愛着と誇りを持つ人材を育てることは、人々が幸せを創り出していける共生社会の実現に繋がります。子どもの確かな学びを実現するための質の高い教育・保育環境を充実させるとともに、個々の興味関心に応じたさまざまな学び・体験・交流ができる機会をつくります。
- 子どもや保護者の多様化するニーズにきめ細かく対応し、安心して子育てができる環境を創ります。地域全体で子育てを応援し、未来を担う子ども・若者が、自分らしく、一人ひとりが思う幸福な生活ができる社会の実現を目指します。
- 「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点とし、未来を担う子ども・若者の学びやチャレンジを応援します。あらゆる年代の人が、主体的に学ぶ喜びを実感できるまちを目指します。

## 基本目標 災害や雪に強く、暮らしやすい安全安心なまち

変わるれ!  
宣言

自主防災組織活動率アップ! 市民が互いに助け合う災害に強いまち

公共交通を確保! 自家用車を使わなくても安心して暮らせるまち

DX技術を活用し、より効率的で安全なインフラを提供できるまち

- 平時においても緊張感を持つことを説いた「常在戦場」の精神や、中越大地震からの復興の経験や教訓を伝承し、不測の事態に備え、不断の努力を怠らず、自助・共助・公助の取組を強化していきます。
- 利便性が高い公共交通網を構築するとともに、公助・共助・互助や新技術の導入など、様々な方法を組み合わせ、将来に渡って持続可能な移動手段を確保します。
- 安全安心で持続可能なまちづくりのために、DX技術を活用するなど、効率的なインフラの整備・保全と除雪イノベーション<sup>(※)</sup>に取り組みます。

※ 除雪イノベーション：道路除雪に関する課題解消に向けた新技術などの調査研究のこと。

## 基本目標 産業が成長し活力を創出するまち

産業構造の変革をチャンスに！次世代産業を育成し、世界水準のものづくり拠点を創造

新事業への挑戦と新時代の人材戦略で、選ばれる企業を創出し住み続けたい長岡へ！

スマート技術が創る未来、次世代につなぐ新しい農林水産業の実現

全国に！海外に！認知度アップで外国人旅行者を倍増！観光消費額も倍増へ！



- 明治期に新たな時代の殖産興業をめざし官や民の垣根を越えて互いに知恵を出し合った長岡初の経済団体といわれる「ランプ会」の志を受け継ぎ、中堅・中小企業を取り巻く事業環境の大きな変化を好機と捉え、市民の創造力を結集して、経済を持続・発展させるイノベーションを推進していきます。
- 人口減少・労働力不足に直面した今こそ次世代産業への取組を通じ、産業全体を活性化させるとともに、IT技術を活用した人材の育成と新たな働き方の導入により、誰もが生き生きと働くことのできる環境づくりを進めていきます。

## 基本目標 にぎわいや交流が生まれる魅力あるまち

新たな長岡戦災資料館を拠点に、平和の尊さを市民とともに発信！空襲体験者の意思をいつまでも受け継ぎ、伝えるまち

来訪者が大満足！花火だけじゃない通年でにぎわう観光都市へ

移住者倍増！多様な人との関わりでもっと豊かなまち長岡へ

誰もがいくつになっても輝き続けられる！文化・スポーツのまち



- 火焰土器、国漢学校、長岡花火といった文化財や教育・観光資源、地場産品、暮らしの知恵は、先人の英知と努力によって創造されました。これら地域の魅力を市民の誇りとして未来に継承するとともに、今を生きる長岡人の魅力と合わせて広く発信していきます。
- 県内唯一の大規模戦災都市である長岡市は、世界の恒久平和を願い「非核平和都市」を宣言しました。悲惨な戦争の記憶を風化させることなく平和の尊さを後世に語り継ぎ、長岡から世界へ平和の灯を広げていきます。

## 基本目標 市民の期待に応え、信頼される行政を推進するまち

市民の7割が行政サービスや政策を評価！市民の期待に応える市役所へ

デジタル社会に対応！新しい「スマート市役所」の実現へ



- 人口減少社会においても、デジタル技術の積極的な活用や民間事業者との連携などにより、市民ニーズを的確に捉えた質の高い行政サービスを提供するとともに、その基盤となる健全な財政を堅持し、持続可能な行政運営を行います。
- 先進技術を活用して業務の自動化・オンライン化を進め、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる、市民に身近で利便性の高い市役所を目指します。

## 第6節 政策を推進する5つの視点

目指す将来像の実現に向けて、以下の5つの視点を各分野共通の視点として持ちながら、効果的に政策・施策を推進します。

## 視点1 市民一人ひとりの幸せを強く意識する

市民が多様な価値観を認め合いながら、自己肯定感を育み、幸せを実感できるまちづくりを推進します。市民それぞれの価値観を尊重し、一人ひとりの「しあわせ」が達成（自己実現）され、心を豊かに人生を送ることができると目指します。

## 視点2 市民と行政が協働して取り組む

市民と行政又は市民同士が、お互いの長所を持ち寄り補い合うことで課題を解決する市民協働のまちづくりを推進するとともに、自らの取り組みで、地域や身近にいる人同士が助け合い、協力し合うことで暮らしやすいまちを実現します。

## 視点3 女性活躍をはじめとする多様性の尊重

女性が自ら望む活躍ができるよう推進することは、男女共同参画を促し、社会における多様性の確保につながる第一歩です。年齢や性別、国籍などに関わらず、すべての人が互いを尊重し、個性を活かして役割をもてる地域共生社会の実現を目指します。

## 視点4 イノベーションを推進し、新たな成果を生み出す

長岡市の強みや特色を生かすとともに、外部人材や最新技術を積極的に活用し、先進的なアイデアを取り入れながらイノベーションを推進することで、新たな価値や成果を生み出します。

視点5 DX<sup>(※)</sup>の推進により、市民生活を快適にする

人口減少が進む中でも、デジタル技術の積極的な活用により、市民の暮らしを快適にし、生活の質の向上を図るほか、生産性の向上や行政事務の効率化を図り、持続可能で暮らしやすい社会を実現します。

※ DX：Digital Transformationの略。デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへ変革すること。

## 第7節 土地利用構想

土地利用構想は、まちの将来像を実現するための「土地の利用及び管理の基本的な方針・考え方」を示すものです。

長岡市が有する地域特性を踏まえながら、人口減少下においても長期にわたって安定し、かつ調和のとれた土地利用と管理を図り、今後も持続可能で実行性のあるまちづくりを進めます。

### 土地利用・管理の基本方針

地形、生活環境、歴史・文化など多様な特性を活かした土地利用と、地域特性や地元意向などを踏まえた土地を継承するための管理の取組を推進していくため、次の5つの基本方針に基づき、総合的かつ計画的な土地利用・管理を図ります。

#### (1) 地形や地理的なつながりを踏まえた土地利用・管理

守門岳から日本海に至る多様な地形において、農地や森林、河川などとのつながりを尊重し、豊かな市民生活や活発な産業活動を育みます。自然が持つ多様な機能を活用することにより、自然災害の発生リスクの低減と景観の維持・保全を図る土地利用・管理を進めます。

#### (2) コンパクトで、広域的な拠点性を高める土地利用・管理

都市拠点に都市機能や居住を維持・誘導する「コンパクトなまちづくり」に取り組んでいることから、さらなる住宅地の供給や大規模商業施設の立地を図る市街地の拡大は行わず、空き地や空き家を有効に活用します。JR長岡駅周辺の都心地区と各地域の中心部などを、幹線道路やバス・鉄道などの公共交通による「交通ネットワーク」で結び、地域で安心した暮らしが続けられる土地利用を進めます。

交通の便が良く、多くの市民にとって集まりやすい都心地区に、広域かつ機能性の高い都市機能を集積させます。併せて、高速道路や新幹線などの交通機関が整った優位性を活かし、市民の豊かな暮らしと中越圏域全体の中心都市としての拠点性を高める効率的な土地利用・管理を図ります。

#### (3) 各地域の多様性を活かし、長岡の総合的な魅力を発揮する土地利用・管理

地域固有のさまざまな資源を保全・活用しながら、地域の活性化を促進する土地利用・管理に取り組みます。各地域の中心部で、日常生活の利便性が高い環境をつくるため、都市機能や居住の維持・誘導を図ります。多様な個性や魅力を有する地域間で、ひと・モノ・情報の双方向の活発な交流を促進するとともに、生活に必要な都市機能の相互利用や農地集積の促進を図るための土地利用転換を進めます。

地域の活力を維持し、新しい発想やデジタル技術を取り入れ、新たな価値の創出を図り、長岡市の総合的な魅力を体感できる土地利用・管理の効率化と高度化を進めます。

#### (4) 豊かさや安全・安心を支える土地利用・管理

既存産業の事業展開の支援や新たな起業・産業の誘致を推進するほか、産業集積を図る土地利用転換など、地域の持続性の確保につながる土地利用を進めます。

美しい里山風景や山並み風景などを維持する景観まちづくりを推進し、愛着と誇りをもてる「ふるさと長岡」をつくりまします。

ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせた防災・減災対策を進め市土の強靱化を図ります。平時から事前防災・事前復興の観点から地域づくりを進め、安全・安心に暮らせる土地利用・管理を図ります。

再生可能エネルギー関連施設の設置や大規模な盛土を含む土地の造成行為などに際しては、周辺の土地利用状況や自然環境、景観、公害未然防止、防災に配慮した、地域との共生が図られる土地利用・管理を進めます。

#### (5) みんなで考え実践する土地利用・管理

人口減少・少子高齢化の進行により、管理が行き届かない土地が増加するなどの課題に対しては、行政、市民、事業者、地域・市民団体などのあらゆる関係者が協働・連携し、持続可能で適切な土地利用・管理を推進します。

